

(2) 高標高の落葉広葉樹林(ケヤキ林等)

1) 植物

三島市内の山地部には、小面積ですが比較的自然性の高い落葉広葉樹の樹林が残っています。春の新緑や秋の紅葉など四季の変化に富んだ樹林です。このような樹林では、96科295種の植物が確認されました。

高木層⁽¹⁰⁾には、ケヤキ、シデ類、カエデ類、マユミ、ヒメシャラなどの落葉広葉樹が多く、低木層⁽¹²⁾には、ゴマキ、クロモジ、アブラチャン、タンナサワフタギなどの落葉広葉樹の他に、ヤブツバキ、アオキなどの常緑広葉樹も見られます。林床はスズタケなどのササ類に被われていることが多いですが、接待茶屋付近では、ササ類の繁茂がなく、ハルトラノオ、マツカゼソウ、セントウソウ、ヒメウワバミソウ、エイザンスミレ、ケチヂミザサ、タニギキョウ、クラマゴケなどたくさんの草本植物⁽¹⁴⁾を観察することが出来ます。

三島市の山地はヒノキなどの植林地が多いのですが、このような自然性の高い樹林も、接待茶屋付近、山田川などの河川の上流部にわずかに残されています。



春 2002/4/3



夏 2002/7/9



秋 2002/10/10



冬 2003/1/9

(諏訪台)



図 4-1-5 ケヤキ群落(接待茶屋付近)の模式断面図

ケヤキ(ニレ科)



山地の溪谷沿いの斜面などに生育する高さ 20m以上になる落葉高木です。和名には特にきわだっている木という意味があります。ほうきを逆さにしたような樹形が美しいため、公園樹、街路樹、屋敷林などに利用されます。また、材質もよく、硬くて湿気に耐えるため、社寺や城の建築材としても使われました。市内では、山地部の落葉広葉樹林の他、公園などでもたくさん見ることができます。

【撮影：2002/11/14 楽寿園】

オオモミジ(カエデ科)



太平洋側の山地に生育する高さ 12m程の落葉高木です。ブナ、ミズナラなどとともに自然林を構成しています。4~5月に淡黄色の花を咲かせます。秋になると紅葉が美しく、人々を楽しませてくれます。市内では、やや湿性な落葉広葉樹林で見ることができます。

【撮影：2002/11/14 諏訪台】

ツクバネウツギ(スイカズラ科)



丘陵から山地の林内や林縁に生育する高さ1~3mの落葉低木です。5~6月に、周辺が白く中心が黄色い漏斗(ろうと)状の花を咲かせます。紅色の果実は、甘みがあり食べることができます。市内では、落葉広葉樹林や林縁で見ることができます。

【撮影：2002/5/13 南原菅】

クロモジ(クスノキ科)



山地の落葉樹林内に生育する高さ3~7m程の落葉低木です。4月頃、葉が開くと同時に黄緑色の小さな花を咲かせ、9~10月頃、直径5mm程の黒い実を付けます。材は白く、独特の香りがあるので、楊枝として利用されています。市内では、落葉広葉樹林や林縁で見ることができます。

【撮影：2002/4/10 諏訪台】

タニギキョウ(キキョウ科)



低地から山地の湿った林内に生育する高さ10cm程の多年草です。和名は谷にはえるキキョウに由来しますが、花は似ていません。5~8月、茎の上部に上向きの白い花を咲かせます。市内では、接待茶屋付近などササが繁茂していない落葉広葉樹林で見ることができます。

【撮影：2002/5/15 南原菅】

イワボタン(ユキノシタ科)



太平洋側の山地谷沿いの湿地に生える草本(そうほん)です。葉の表面には灰白色の斑紋が入っています。4月頃、径3~4mmの黄緑色の小さな花を咲かせます。日本特産種の一つです。市内では山田川などの河川上流部や湿った落葉樹林下で見ることができます。

【撮影：2002/4/10 諏訪台】

2) 動物

高標高の落葉広葉樹林では、哺乳類 6 科 9 種、鳥類 21 科 37 種、は虫類 3 科 3 種、両生類 3 科 5 種、昆虫類 63 科 155 種が確認されました。

哺乳類

ノウサギ・スミスネズミ・タヌキ・ニホンイノシシなど、今回の調査で最も多くの種類が確認されました。高い標高の森林であることから、低地では見ることはできないスミスネズミが生息しているのが特徴です。本種はドングリや草の葉を餌としており、そのような餌をかみ砕きやすい歯の形をしています。落葉広葉樹林は、林床にノウサギやネズミ類の餌となる草が多く、また、積もった落ち葉の間にはネズミ類やタヌキなどの餌となる昆虫類やミミズ類が豊富であることから、哺乳類にとって数少ない良好な環境であると思われます。

鳥類

調査を行った山田川上流部の落葉広葉樹林は面積が広く、緩やかな斜面となっており、春～夏の繁殖時期にはミソサザイ・コルリ・ヤブサメなど多くの鳥類が見られました。コルリやキビタキなどの夏鳥が多いのが特徴ですが、その中でもクロツグミは他の場所よりも多数の声を聞くことができました。なお、今回の調査地には最近各地で分布を広げている外来種のガビチョウも多く生息していますが、この鳥はクロツグミと似た声でさえするので区別は難しいです。

は虫類・両生類

は虫類ではカナヘビ・アオダイショウ・ヤマカガシが確認され、いずれも林縁部や道路などで見られる場合が多く、林の中ではなかなか出会えません。

両生類ではハコネサンショウウオ・アズマヒキガエル・ヤマアカガエル・ツチガエル・タゴガエルが確認されました。ハコネサンショウウオは森林内を流れる流水中で幼生が確認されましたが、生息密度はあまり高くないようでした。成体は上陸して森林の林床で生活しますがめったに見つけれられません。アズマヒキガエルもほとんどが沢で確認され、山田川上流で多く見られました。ヤマアカガエルは接待茶屋付近で産卵地が確認されていますが、三島市の山地部ではあまり多くないカエルのようです。ツチガエルも林内を流れる沢にすんでいます。タゴガエルも沢で確認されたものがほとんどですが、変態後は森林内で生活します。

昆虫類

夜間の調査では、自然性の高い落葉広葉樹林に生育する樹木を食樹⁽³⁸⁾とするユミモンシャチホコ(食樹：ケヤキなど)、カエデシャチホコ(食樹：カエデ類)、クロスジシャチホコ(食樹：イヌシデなど)、フタジマネグロシャチホコ(食樹：サワフタギ)、ハネブサシャチホコ(食樹：カジカエデ)などのガ類が確認されました。このほか、地上を徘徊するルイスオサムシ・シズオカオサムシや、獣糞・腐食物に集まるツヤマルエンマコガネ、植物食のスジコガネ・オオスジコガネなどのコウチュウが確認されました。

スミスネズミ



体の長さが70～115mm、尾の長さが30～50mmで、尾が短いのが特徴のネズミです。県内では、比較的標高の高い山地で確認されています。ドングリなどの実や落葉広葉樹の葉を食べます。

【撮影：2002/2/27 北原菅】

アズマヒキガエル



成体は12cm前後もある大きなカエルですが、変態時のカエルの体長は6～8mmしかありません。春先に水たまりなどに長いひも状の卵を産みます。幼生は黒色をしています。成体は夏に沢沿いでよく見られます。

【撮影：2002/7/24 諏訪台】

タゴガエル



体長4cm前後の小さな森林性のアカガエルです。産卵は早春に水のしみ出すところで行い、土の中でグググッと低い声で鳴きます。夏に林の中で出会うカエルの多くはこのタゴガエルです。

【撮影：2002/8/29 佐野】

ヒカゲチョウ



はねを広げた時の幅が5.5cm程度のチョウです。

幼虫の食草のメダケやクマザサなどのタケ科植物の多い雑木林を好み、林内とその周辺で活動します。6～9月に見ることができます。

【撮影：2002/7/24 諏訪台】